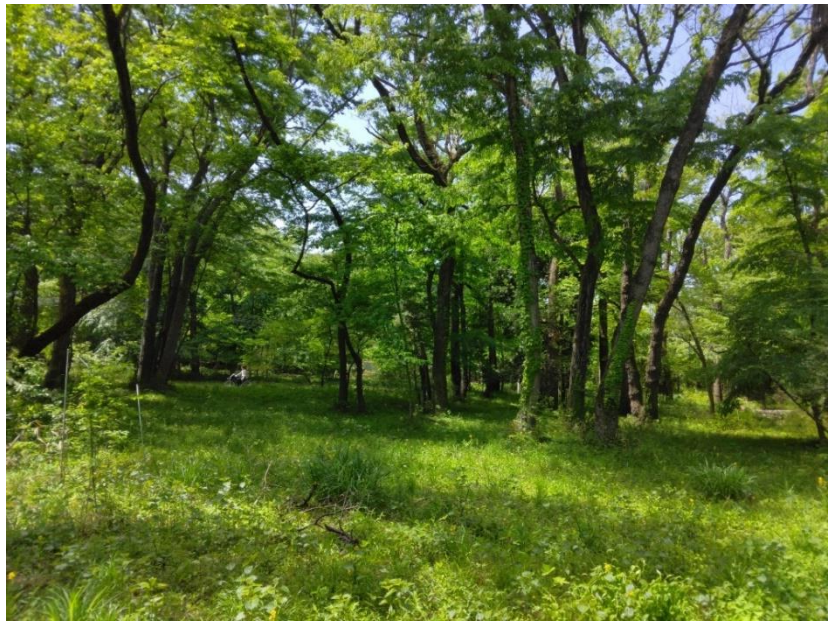
場所・面積　東京都三鷹市、57.24 ha

管理目的　豊かな自然を有する国際基督教大学及び国際基督教大学高等学校の教育研究の場として、また地域の生物多様性保全に貢献することを目的。

サイト概要

・東京都三鷹市・小金井市に位置し、面積約６２万m2の全体にわたって豊かな自然を有している。サイトの中に、大学・高校キャンパスが存在し、教育研究活動を実施しており、豊かな自然は重要な教育研究資源になっている。また、武蔵野の面影を残す雑木林があり、南西部には国分寺崖線の一部を包含し、さらに都立野川公園、都立武蔵野公園が隣接しており、申請サイトはこれら豊かな自然環境一帯の中核をなしている。
・樹林は、コナラ、クヌギを主とした落葉広葉樹林やケヤキ、シラカシを主とした屋敷林の名残と考えられる樹林などからなり、主な哺乳類はタヌキ、アナグマ等、また以前から希少な鳥類が営巣活動しているほか、主な昆虫類はオニヤンマ、ヒグラシ等、主な爬虫類・両生類はニホンヤモリ、ニホンアカガエル等も含めてかつて里山周辺に見られた動物種が生息している。
・また、植物種としては、キツネノカミソリ等水辺から樹林性まで東京都では少なくなった種が確認されており、地域の生物多様性上、重要な緑地となっている。



土地利用の変遷

申請サイトはもともと多くが個人所有の畑や山林であり、国分寺崖線上は針葉樹や広葉樹が広く分布していた。1941年企業が取得し、その後1954年学校法人国際基督教大学が取得した。以来、「武蔵野の雑木林」の景観を残す等豊かな自然環境を維持するよう管理してきている。

サイト周辺の環境

・東京都三鷹市西部・小金井市北部に位置し、申請サイトの東側・北側は、企業や住宅等に囲まれ、一方、南西部は、都立野川公園（40ha）、都立武蔵野公園（24ha）と隣接（連続）しており、これら一帯で広い自然環境（計126ha）を構成している。
・豊富な湧水が国分寺崖線の下部から数か所で湧き出しており、シラスゴケ、セリ等が生育しハンノキ等が湿生樹林を形成、かつ豊富な湧き水は野川に供給されている。また、申請サイトと両公園との間で、アナグマやタヌキ等の小動物が行き交っていることも確認されている。

アピールポイント

・学校法人国際基督教大学は、「ICU環境宣言」を2006年に策定し、WEBサイトで公開している（https://www.icu.ac.jp/about/activities/）。本宣言で、「ICUは、そのキャンパスにおいて比類なく美しい自然と、貴重な文化遺産を擁している。ICUはこの環境を天の財として、その保全に責を負うものである」と明文化した。キャンパス生態系維持への努力など、これまでも十全な管理に取り組んできており、さらに、次の世代に受け継げるよう努めている。
・大学授業科目「環境アセスメント実習」、「基礎生物学実習」等や高校の授業の場として、大学生の卒論研究と外部機関（東京農工大学、森林研究整備機構等）による研究の場としても活用されている。
・樹林地管理として、建物周辺の植栽地、シバ草地等の樹木剪定及び草刈を中心とした年間約30回の管理と、地域住民との協働として近隣農家による下草刈りと落葉かきの管理をコナラ林・クヌギ林で長きにわたって行っている。これにより、雑木林の林床に生育する希少種等の植物種が多い環境を維持している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

申請サイトは全体に豊かな自然を有しており、国分寺崖線を包含し、 武蔵野の面影を残す雑木林が残されている。 2009 年に実施した植生調査によると、コナラ・クヌギ群落をはじめとする多様な群落が確認されている。ここでは、下草刈り・落ち葉掻き等、積極的に手を加えるエリアと最低限の手を加えるエリアを設定し、植生管理にメリハリをつけることにより多様な自然環境が保全されている。

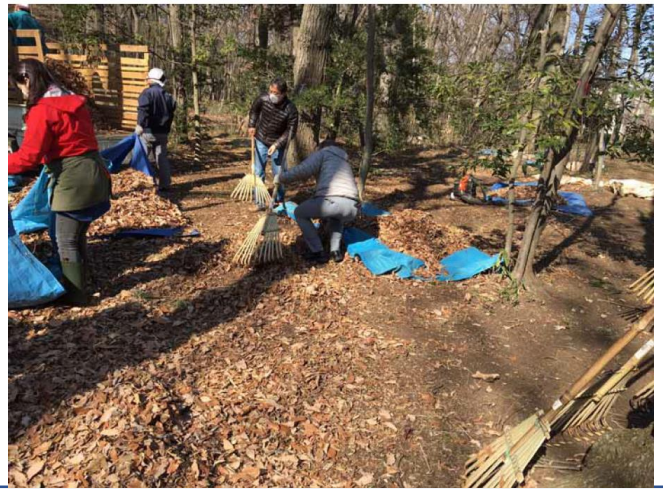
【主な植生】

コナラ・クヌギ群落、ムクノキ・エノキ群落、ケヤキ植栽地、モウソウチク林等

【確認された主な動植物】

(1)植物

調査の結果、合計117科545種類の植物が確認された。調査地域には、落葉広葉樹林が広くみられ、コナラやクヌギ、イヌシデ、ムクノキなどが林冠を形成し、その下層にオオハナワラビやミズヒキ、フジカンゾウ、アキノタムラソウ、シラヤマギク、ヤブラン、アズマネザサなどの林床生の草本が多くみられ、一部にはヤマグワやヒサカキ、アオキ、シュロなどの低木がみられた。下草刈りによる管理が行われている林床で多く種が確認された。そのほか、学校施設の周辺においては、スイバやツメクサ、ドクダミ、エノキグサ、イヌガラシ、ハハコグサ、ノビル、メヒシバなどの路傍周辺によく生育する草本が多くみられた。



写真の撮影年月：2017年2月
写真の説明：近隣農家による落ち葉掻き



写真の撮影年月：2020 年3月
写真の説明：シラヤマギク

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

(2)哺乳類

調査の結果、4 目6科6種の哺乳類が確認された。確認された種は、タヌキ、ハクビシン、アカネズミ、アズマモグラ、アブラコウモリなどである。希少種ではアナグマが確認された。

(3)鳥類

調査の結果、13目30科52種の鳥類が確認された。森林に生息する種では、シジュウカラやヤマガラなどのカラ類、アオゲラやコゲラなどのキツツキ類がみられた。森林周辺に生息する種では、オオタカやノスリなどの猛禽類や、カシラダカ、アオジ、モズなどがみられた。水域および水域周辺にみられる種の多くは野川周辺で確認されたサギ類やカモ類などの水鳥であるが、崖線下部の一部の湿地ではカワセミが確認された。

(4)両生類・爬虫類

調査の結果、2目6科8種の両生類・爬虫類が確認された。申請サイト内では、比較的乾燥に強いニホンヤモリやニホンカナヘビ、ヤマカガシといった爬虫類が確認された。野川周辺は、水域や湿地が点在するので、アズマヒキガエルやニホンアカガエルの幼生などが確認された。

(5)昆虫類

調査の結果、キャンパス内において15目172科707種が確認された。また、野川周辺では13目106科267種が確認され、合計で15 目178 科774 種が確認された。



写真の撮影年月：2017年4月
写真の説明：無人撮影カメラを用いた調査で確認されたタヌキ



写真の撮影年月：2009年9月
写真の説明：カスミ網を用いて捕獲されたアブラコウモリ

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

春季にはウラギンシジミやゴマダラチョウ、オオスズメバチなどの樹林でみられる昆虫類が多く確認され、その他に、ナミアゲハ、キタキチョウなどの草地でみられる昆虫類が確認された。

初夏季には、ヤマトシロアリやミズイロオナガシジミ、オオスズメバチなど、樹林でみられる昆虫類の確認が多く、その他に、ルリシジミ、キクスイカミキリなどの草地でみられる昆虫類やハグロトンボなどの河川でみられる昆虫類が確認された。

夏季にはカブトムシ、ノコギリクワガタなどの樹林でみられる大型の昆虫類が多く確認され、その他に、ショウリョウバッタ、オオカマキリなどの草地でみられる昆虫類が確認された。

秋季にはホシササキリ、ハラオカメコオロギなどの秋に成虫になる昆虫類が多く確認された。

(6)追記

申請サイトでは、本申請で引用した動植物調査以降も、学内の動植物研究に関わる調査、施設建設に関わる自然環境調査を継続的に実施している。そこで得られた調査データを含めると、申請サイトに生息・生育する動植物の種数はさらに多いことを確認している。その中には希少種も含まれている。



写真の撮影年月：2022年7月
写真の説明：申請サイト内にある建物屋上で確認された
フクロウ幼鳥

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

申請サイトは国分寺崖線に存しており、武蔵野の面影を残す雑木林が残されている。サイト内における動植物の生息・生育状況を把握するため、2009年～2010年に動植物調査を実施した。希少な動植物種の判定には、環境省レッドリストおよび東京都レッドリストを用いた。東京都レッドリストでは申請サイトは「北多摩地域」に区分される。レッドリストは2020年に改定されたため、最新のランクが確認できるようアップデートしている。

申請サイトでは、本申請で引用した動植物調査の他にも、学内の動植物研究に関わる調査、施設建設に関わる自然環境調査を実施しており、2009年～2010年の動植物調査以降においても、アナグマなどの繁殖が高い頻度で確認されている。また、キツネノカミソリ等の希少植物が引き続き、多数生育することが確認されている。申請サイト内での施設建設時には、事前に自然環境調査を行い、希少種が確認された場合は移植等による保全を行っている。

【確認された希少種】

(1)植物

2009年8月～2010年7月に実施した調査の結果、15科25種類の希少種が確認された。希少種のなかには、キツネノカミソリなど、草地や明るい林床に生育する種が多くみられた。

調査時には希少種の選定基準として、「東京都レッドリスト（2010 年版）」を用いたが、2020年に改定されたためアップデートした。それによると、希少植物の種数は25種から19種に減少した。



写真の撮影年月：2016年8月
写真の説明：キツネノカミソリ（東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

2009年8月～2010年7月に実施した調査において、環境省レッドリスト（2020 年版）の希少種が6種確認された。

(2)哺乳類

2009年7月～2009年11月に実施した調査及び聞き取り調査において、以下のとおり東京都レッドリスト（2010 年版）の希少種が確認された。

・アナグマ（学名：*Meles anakuma*、成体、東京都レッドリスト準絶滅危惧）

なお、東京都レッドリスト2020 年版においても、アナグマのランクに変化はなかった。

(3)鳥類

2009年5月～2010年1月に実施した調査の結果、12科17種の希少種が確認された。サイト周辺では、水域を生息環境とする鳥類が確認されていることから、調査は野川を含めて実施した。森林または森林周辺を生息環境とする鳥では、オオタカ、アオゲラ、モズ等が確認された。水域または水域周辺を生息環境とする鳥では、コサギ、カワセミ、セグロセキレイ等が確認された。東京都レッドリスト2020年版によると、希少鳥類の種数は17種から12種に減少した。

2009年5月～2010年1月に実施した調査において、以下のとおり、環境省レッドリスト（2020 年版）の希少種が3種確認された。

・オオタカ（学名：*Accipiter gentilis*、成鳥、環境省レッドリスト準絶滅危惧）
・ハイタカ（学名：*Accipiter nisus*、成鳥、環境省レッドリスト準絶滅危惧）
・サシバ（学名：*Butastur indicus*、成鳥、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

(4)両生類・爬虫類

2009年7月～2010年3月に実施した調査の結果、キャンパス内では、比較的乾燥に強いニホンヤモリやニホンカナヘビ、ヤマカガシの3種が確認された。また、水域や湿地が点在する野川周辺では、ニホンアカガエル、ニホントカゲ、アオダイショウの3種が確認された。

2009年7月～2010年3月に実施した調査において、以下のとおり、東京都レッドリスト（2010 年版）の希少種が6種確認された。

・ニホンアカガエル（学名：*Rana japonica*、卵塊・幼生、東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）
・ニホンヤモリ（学名：*Gekko japonicus*、卵・成体、東京都レッドリスト留意種）
・ニホントカゲ（学名：*Plestiodon finitimus*、成体、東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類 ）
・ニホンカナヘビ（学名：*Takydromus tachydromoides*、成体、東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類 ）
・アオダイショウ（学名：*Elaphe climacophora*、環境省レッドリスト準絶滅危惧）
・ヤマカガシ（学名：*Rhabdophis tigrinus*、幼体、東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）

東京都レッドリスト2020 年版によると、ランク外となった希少種はなく、希少種の種数は6種であった。

(5)昆虫類

2009年5月～2009年10月に実施した調査の結果、11科18 種の希少種が確認された。サイト内に広がる樹林環境を反映し、樹林でみられる種が多いが、野川周辺の水辺環境の影響を受け、水辺に依存したトンボ類も確認された。

東京都レッドリスト2020年版によると、希少種の種数は18種から5種に減少した。

2009年5月～2009年10月に実施した調査において、サラサヤンマ（学名：*Sarasaeschna pryeri*、成体、東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類 ）等の東京都レッドリスト（2020 年版）の希少種が5種確認された。



写真の撮影年月：2009年5月
写真の説明：サラサヤンマ（東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

(6)追記

　申請サイトでは、2009年～2010年に動植物調査を実施して以降、学内の動植物研究に関わる調査、施設建設に関わる自然環境調査を継続して実施している。そこで得られた調査データでは、哺乳類ではニホンイタチ、鳥類ではフクロウ等の希少種が新たに確認されている。



写真の撮影年月：2022年7月
写真の説明：申請サイト内にある建物屋上で確認されたフクロウ幼鳥

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

申請サイトは全体に豊かな自然を有しており、国分寺崖線を包含し、武蔵野の面影を残す雑木林が残されている。サイト内には、下草刈り・落ち葉掻き等積極的に手を加えるコナラ・クヌギ林と最低限の手を加える保全林がある。後者では低木が繁茂し、中型哺乳類等の生息に適した環境となっており、アナグマ等の繁殖が確認されている。

【対象となる動物種】

アナグマ（学名：*Meles anakuma*）：（東京都レッドリスト準絶滅危惧）

【動物が利用している生活史】

アナグマは，1980 年には申請サイトが位置する東京都北多摩地区では地域絶滅したとされていた。サイト内では2008年6月に初めて記録され、翌年には繁殖が確認された。その後、2022年までサイト内で連続して繁殖が記録されている。

①繁殖および活動

自動撮影カメラ及び赤外線夜間撮影機能の付いた自動撮影ビデオカメラを用いた調査によると、アナグマはサイト内では、3月に巣内で出産、4月末頃になると巣の外に出るようになり、巣穴を頻繁に移動しながら、冬まで母子で活動することが確認されている。また、サイト内には10以上の巣穴があることが確認されている。特筆すべき点は、12月初めになると活動は鈍るものの、山間部のように冬眠することがなく、短時間ではあるが、冬季もほぼ毎日巣穴から出て、活動することである。

②エサ

アナグマは雑食性で、キャンパスの広葉樹林の林床では、ミミズや土壌昆虫をエサとするが、クワの実やエノキ、ムクノキの実なども、落下する時期には好んで食べることが確認されている。



写真の撮影年月：2014年4月
写真の説明：アナグマ成獣



写真の撮影年月：2011年6月
写真の説明：授乳体制のアナグマ雌成獣と幼獣

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

申請サイトは国分寺崖線に存している。国分寺崖線は古代の多摩川が武蔵野台地を削りとることにより形成された河岸段丘である。サイトの環境は、崖線上部が緑地、崖線下部が湧水により形成される湿地または水辺となっている。崖線という地形的な特徴によりサイトは緑と水が豊かな環境であることが確認されている。

また、小金井市は、申請サイトの一部が国分寺崖線に存する環境緑地であることから、市が保全を図る緑地に指定している（根拠資料：小金井市緑地保全及び緑化推進条例）。三鷹市は、申請サイトを緑の大空間と位置づけ、緑と水の都市構造を形成する骨格としている（出典：三鷹市緑と水の基本計画2022（第2次改定））。東京都は、申請サイトを含む国分寺崖線を景観基本軸に位置づけ、広域的に連続する緑や崖線が生み出す湧水などの自然環境の保全を図るとしている（出典：東京都景観計画　国分寺崖線景観基本軸）。

【主な植生】

コナラ・クヌギ群落、ムクノキ・エノキ群落等

【隣接・接続する保護地域等】

保全緑地（国分寺崖線）　（注）東京都指定

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

申請サイトに隣接する野川公園はもともと大学のゴルフ場であった。大学は森林主体、公園は草地主体であることから、多様な動植物が連続的に利用できる場となっている。

国分寺崖線上には、国際基督教大学の他に日立製作所、都立武蔵野公園、国立天文台、神代植物公園等のまとまった緑地がある。それらは、生物多様性の拠点（コアエリア）となっている。また、野川はそれらを連結する生態的回廊（コリドー）となっている。



写真の撮影年月：2022年12 月
写真の説明：キャンパス周辺の航空写真



写真の撮影年月：2023年4月
写真の説明：野川公園とサイト内国分寺崖線との連続性写真

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

申請サイトは、大学・高校施設や学生寮があるゾーンと広大な緑地が保全されているゾーンに大別される。前者では、安全・美観維持の観点から、植栽低木剪定、下草刈り、下り枝剪定を行っている。後者では、下草刈り・落ち葉掻きを行っているゾーンと人為的な手の加え方を最小限にしているゾーンがあり、多様な生態系が保全されている）。特筆すべき点は、コナラ・クヌギ林では古くから近隣農家により下草刈り・落ち葉掻きが行われており、収集された落ち葉は、春先の野菜苗育苗時の熱源、落ち葉堆肥として利用されている点である。

管理計画は、学生・職員のキャンパスライフを安全で快適にすること、また、広大な緑地では管理にメリハリをつけることにより動植物の生息・生育環境に配慮することを目的として策定する。

【管理計画のスケジュール】

大学・高校施設や学生寮があるゾーン（教育研究・学生生活ゾーン）では、安全、美観維持の観点から、植栽低木剪定、下草刈り、下り枝剪定を行う。教員住居がある自然ゾーンでは、春先の野菜苗育苗時の熱源利用、落ち葉堆肥化を目的として、近隣農家（１１戸程度）が例年、下草刈り、落ち葉掻きを行っている。また、竹林の拡大・侵入を抑制するため、4月に教員の指導のもと竹林管理作業（タケノコ堀り等）を行う。

モニタリング計画の内容

モニタリング調査を５年に１回を基本として実施し、今後の管理計画の参考とする。

【モニタリング対象】

申請サイト内に生息・生育する希少動植物

【モニタリング場所】

申請サイト全域

【モニタリング手法】

植物相：直接観察
哺乳類：無人撮影調査
鳥類：任意確認調査
両生・爬虫類：目撃・フィールドサイン調査
昆虫類：任意採集調査、トラップ調査

【実施時期及び頻度】

植物相：早春期、春季、夏季、秋季に各1回
哺乳類：夏季に1回
鳥類：春季、夏季、秋季、冬季に各1回
両生・爬虫類：早春季、夏季に各1回
昆虫類：春季、夏季に各1回

【 実施体制 】

学内の「自然環境保全管理委員会」主導による